

鈴木明彦¹・圓谷昂史²：2016年秋の北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着Akihiko SUZUKI¹ and Takafumi ENYA² : Stranding record of the common paper nautilus *Argonauta argo* on the coast of Yoichi Bay, Hokkaido, in the autumn of 2016

アオイガイ *Argonauta argo* Linnaeus は、日本列島の暖流域で浮遊性生活を送るカイダコ科のタコで、その貝殻は海岸にしばしば打ち上げられる（鈴木 2016）。北海道の日本海側では、2005年以降数年おきに、アオイガイの大量漂着が確認されている（Suzuki and Enya 2013；圓谷・鈴木 2015）。今回、北海道の余市湾沿岸で、2016年秋にアオイガイの漂着を確認したので報告する。

余市湾は、余市町東部～小樽市西端に位置し、日本海に面している。この付近には東西方向に中粒砂主体の砂浜海岸が発達する。2016年10月中旬～11月上旬にかけて、余市湾沿岸の海岸で、週に1度（合計5回）漂着アオイガイの調査を行った。10月中旬からアオイガイ漂着が知られていたが、実際に採集できたのは10月下旬のみであった。採集された貝殻は7個体で、軟体部や卵塊を伴うものはなかった。これらは、汀線付近に木片や漂着ゴミとともに打ち上げられていた（図1，図2）。

標本1（図1）は、ほぼ完全な貝殻で、殻長134.6mm、殻高92.0mm。標本2（図2）は、殻長62.7mm、殻高48.6mm。標本3は、殻長85.5mm、殻高56.7mm。標本4は殻長90.0mm、殻高57.0mm。一方、標本5，6，7は殻頂部のみで不完全な標本であった。貝殻は薄く白色で、殻頂部は内巻きになっている。放射肋は細かく、その末端は突起になり縁の両側に対になって並ぶ。また殻頂部は黒色を帯びる。

2012年の大量漂着以降も余市湾では散点的な漂着が続き（鈴木・圓谷2016a, 2016b）、2016年も数は多くないが例年のように漂着が認められた。



図1 余市湾沿岸に打ち上げられたアオイガイ（標本1）。



図2 余市湾沿岸に打ち上げられたアオイガイ（標本2）。

引用文献

- 圓谷昂史・鈴木明彦. 2015. 2010～2014年において北海道余市湾沿岸に漂着したアオイガイ. 北海道開拓記念館研究紀要 (43): 27-36.
- 鈴木明彦. 2016. 北海道の海辺を歩く-ビーチコーミング学入門. 120pp.中西出版, 札幌.
- 鈴木明彦・圓谷昂史. 2016a. 2014年秋における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着. ちりぼたん 45: 296-301.
- 鈴木明彦・圓谷昂史. 2016b. 2015年秋における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着. 漂着物学会誌 14: 43.
- Suzuki, A. and Enya, T. 2013. Mass strandings of the common paper nautilus *Argonauta argo* along the coast of Yoichi Bay, Hokkaido, in the autumn of 2012. Journal of Japan Driftological Society 11: 1-7.

(Received Mar. 5, 2017 ; accepted Apr. 15, 2017)

¹北海道教育大学札幌校地学研究室 〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1

¹ Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, 5-3-1 Ainosato, Kita-ku, Sapporo 002-8502, Japan

²北海道博物館 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

² Hokkaido Museum, 53-2 Konopporo, Atsubetsu-cho, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0006, Japan